

# 各論 4

【各論 4】

## 大阪府での取り組み

(小児高度専門病院、病院、医師会、開業医、  
重心施設、行政が連携した医療的ケア児支援  
ネットワーク)



## 事業の概要

小児在宅医療の取り組みは、1990年（保険収載以前）の一人の女児の在宅人工呼吸への試みから始まった。その後1992年府医師会勤務医部会に「小児の在宅医療システム検討委員会」が設置され、勤務医による活動が開始した。その成果として「小児の在宅生活支援のための医療的ケアマニュアル」、医療的ケア「ビデオ」製作（府医師会・教育委員会合同）がなされた。2004年その功績が認められ会長直属の「小児医療的ケア検討委員会」となり、「医療的ケア人形まーちゃん」（京都科学と合同）を作成した。2008年以降医療的ケア研修会を毎年開催している。一方大阪のNMCS（新生児診療相互援助システム）28病院内でも「長期入院児の問題」が大きくなり、大阪府医師会周産期医療委員会に「NICU長期入院者対策小委員会」が設置され、2009年「NICU長期入院者対策検討報告と緊急提言」報告書を出した。同時期に大阪府では退院支援事業を立ち上げ、行政と共に小児の在宅医療の推進が以後進められることになった。

## 内 容

1. 大阪府医師会の取り組み
  - ・「小児の在宅医用システム検討委員会」（1992－2003年度）
  - ・「小児医療的ケア検討委員会」（2004年度－）
  - ・周産期医療医療委員会「[NICU長期入院者対策小委員会]
2. 行政の取り組み
  - ・「長期入院児退院促進等支援事業」（2009年度－）
  - ・「在宅高度医療児支援ネットワーク構築事業」（2009年度－）
3. 医療と福祉の連携
  - ・「小児在宅医療連携協議会」（ボランティア）（2012年度－）
  - ・「大阪の小児在宅医療を考える会」（現ボランティア）  
（2010年度第1回開催、5病院が主体で開催、第3回以降連携協議会主催）
  - ・「ショートステイ連絡協議会講演会」（現ボランティア）  
（2013年第1回-3回、厚労省委託事業、第4階以降連絡協議会主催）
4. 大阪全体の長期入院児の動きと現状
5. 高度医療児の在宅移行支援のためとくに大切な三本柱（医療・福祉・教育）
6. 大阪府の健康医療部・福祉部の現在の在宅医療支援および地域生活支援事業

## ■大阪府医師会の取組み

- 1992年 大阪府医師会勤務医部会「**小児の在宅医療システム検討委員会**」設置
- 1993年 「小児のハイテク在宅医療実態一次調査」実施(第1回)
- 1994年 「小児のハイテク在宅医療実態二次調査」実施  
—総合的な支援体制の不備が指摘
- 1995年 各方面の専門家や現場からのヒアリングを施行、学会活動
- 1996年 「家族のQOLの実態調査」実施
- 1998年 「小児のハイテク在宅医療実態調査」実施(第2回)
- 1999年 愛の輪基金より助成金授与、大阪養護教育と医療研究会で  
「養護学校における医療的ケアに関するアンケート調査」実施
- 2000年 「**小児の在宅生活支援のための医療的ケアマニュアル**」初版発刊
- 2001年 大阪教育委員会、「小児の在宅医療システム検討委員会」に  
オブザーバ参加
- 2002年 府医師会・府教育委員会合同で「**医療的ケアマニュアルビデオ**」製作・完成
- 2003年 「医療的ケア人形」製作について協議
- 2004年 大阪府医師会直属の「**小児の医療的ケア検討委員会**」に昇格  
その下に「医療的ケア人形製作小委員会」「医療的ケアマニュアル改訂  
小委員会」が設置
- 2005年 「**医療的ケア人形まーちゃん**」京都科学と合同で完成、市販
- 2007年 「**小児の在宅生活支援のための医療的ケアマニュアル**」改訂版発刊
- 2008年 医師のための医療的ケア研修会を毎年開催

2000年発刊



大阪府医師会勤務医部会  
小児の在宅医療システム検討  
委員会 (1992-2003)



2002年7月



大阪府医師会・大阪府  
教育委員会合同  
製作ビデオ



2007年発刊



大阪府医師会  
小児の医療的ケア  
検討委員会 (2004-)

## 医療的ケア人形(まあちゃん)の製作



### 2004年計画

→大阪府医師会  
小児医療的ケア  
検討委員会協力

### 2005年完成

→京都科学製作  
(大阪府医師会協力)



### 2006年市販

定価40万円  
(京都科学)

## 大阪府医師会「小児の在宅医療研修会」(2008年以降) (講義・実技講習会)

- 日時：・2015年12月5日(土) 午後2時～  
・2016年2月27日(木) 午後2時～  
・2016年9月10日(土) 午後2時
- 場所：大阪府医師会館4階 大会議室A・B
- 対象：医師、看護師等
- 主催：大阪府、受託団体：大阪府医師会
- テーマ：「在宅児の状態悪化時の対応について」
- 講演：「SpO2が低下した時、あなたならどうする」  
講師：刀根山病院小児神経内科部長 齊藤 利雄
- 模擬症例実習(臨床技能トレーニング人形を使用)  
・「気管切開・胃瘻チューブ」トレーニング  
・「シナリオに基づいた医療的ケア」のトレーニング

大阪府医ニュース、2016年9月28日



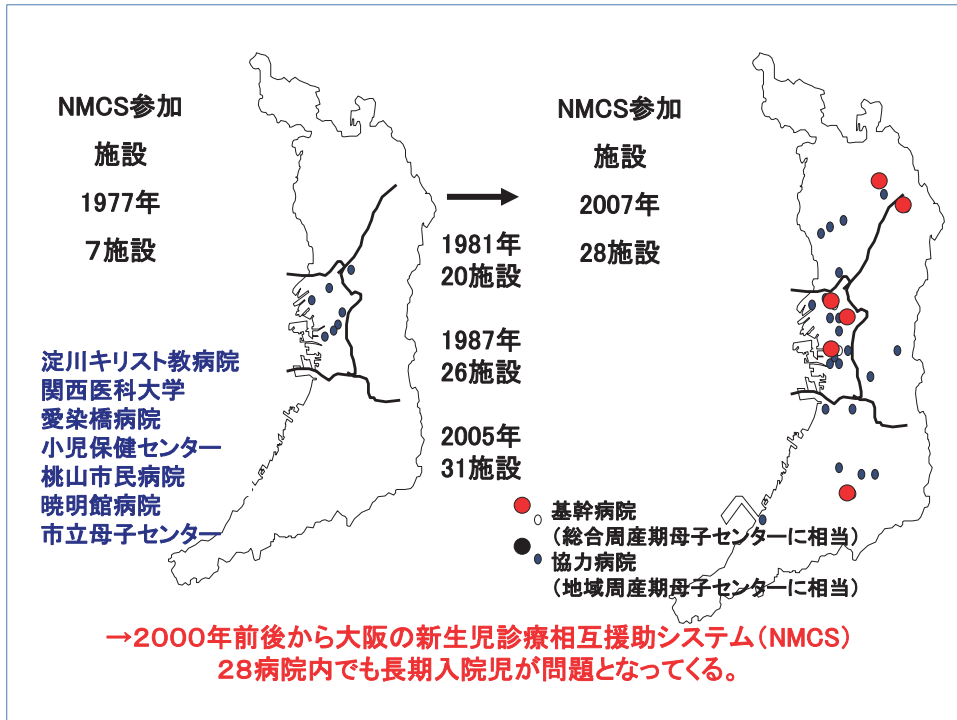
定員：40名

(新)ナーシングベビー



「まあちゃん人形」





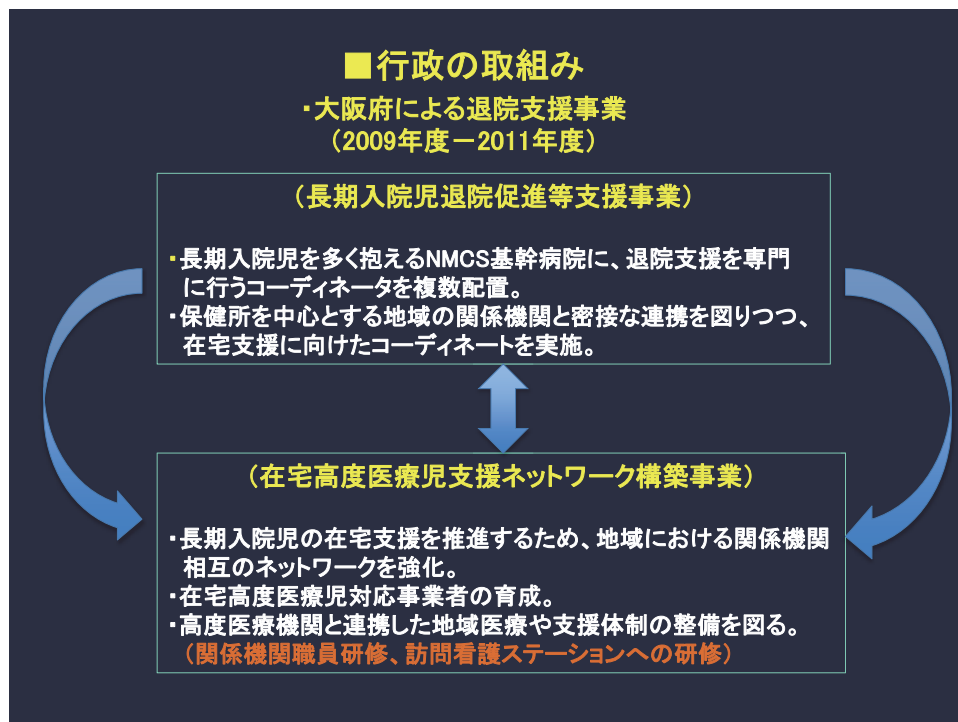
### ・ NICU長期入院者対策検討報告と緊急提言 (2009年)



#### 長期的展望

- 1) NICU等長期入院児のための後方支援病床計画策定
- 2) NICU等長期入院児の実態把握と公的協議会の設置
- 3) NICU入院児支援コーディネータの配置と有効活用
- 4) 保健センター保健師を地域コーディネータとして教育・活用
- 5) 当該医療機関または他医療機関での超重症児病床確保
- 6) 療育施設(重症心身障害児施設等)における超重症児病床確保
- 7) 療育施設での人材確保
- 8) 在宅支援体制の構築

大阪府医師会周産期医療委員会  
NICU長期入院者対策小委員会設置 (2008年)  
〈周産期医療センター・療育施設・大阪小児科医会・大阪府医師会・行政〉



**・在宅支援退院コーディネーター等の配置**  
**(コーディネーター・エンパワメント支援員)**

**NMCS基幹5病院に配置(計9名)**  
 <高槻病院・愛染橋病院・大阪市立総合医療センター  
 淀川キリスト教病院・大阪府立母子保健総合医療センター>

- ・長期入院児実地調査
- ・地域連携パスの作成
- ・「**大阪小児在宅医療を考える会**」の開催
- ・院内及び地域関係機関とのカンファレンス開催
- ・訪問看護ステーションへの医療的ケア研修会開催
- ・コーディネーター、エンパワメント支援員会議
- ・医療的ケアの標準化

## ■医療・福祉・行政の連携

### 第1回小児在宅医療連携協議会の開催(ボランティア)

(2012年11月22日、大阪府医師会)

< NMCS5病院・5大学・大阪府医師会・大阪看護協会・大阪小児科医会・療育施設・行政 >



世話人代表  
大阪府立母子保健  
医療センター  
患者支援センター  
在宅医療支援部門部長  
位田 忍 氏



各論 4  
大阪府での取り組み

### 大阪の小児在宅医療を考える会(連携協議会主催)

・開催日時:2016年1月17日(日)10:00-16:30

・開催場所:大阪市立総合医療センター さくらホール

・第6回テーマ:「小児の地域包括ケアの構築を目指して」-医療と福祉の連携-

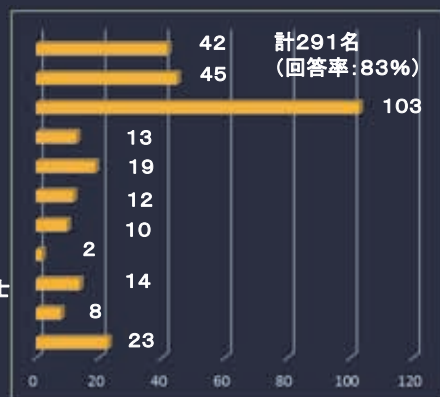
“医療従事者はもっと重症児のための地域の福祉支援を知ろう!”

(大阪発達総合療育センター担当)

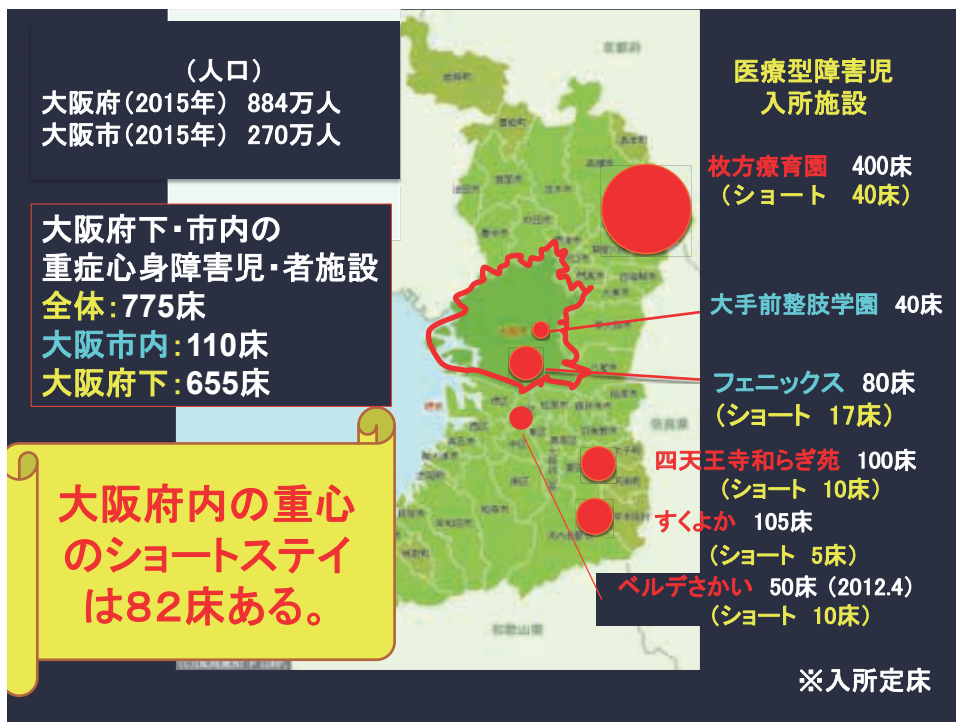


全参加数:352名!

- ・医師
- ・保健師
- ・看護師
- ・行政
- ・教育関係
- ・療法士
- ・相談支援  
専門員
- ・心理士
- ・社会福祉士
- ・介護士
- ・その他








ショートステイ連絡協議会講演会の開催(2013年ー)  
(厚生労働省平成25年度委託「重症心身障がい児者の地域生活モデル事業」)

→2013年以降、大阪市・大阪府による病院「医療型ショートステイ」事業開始  
→ショートステイ相互援助システム  
→2014年以降ボランティア活動(世話人施設:現14施設)

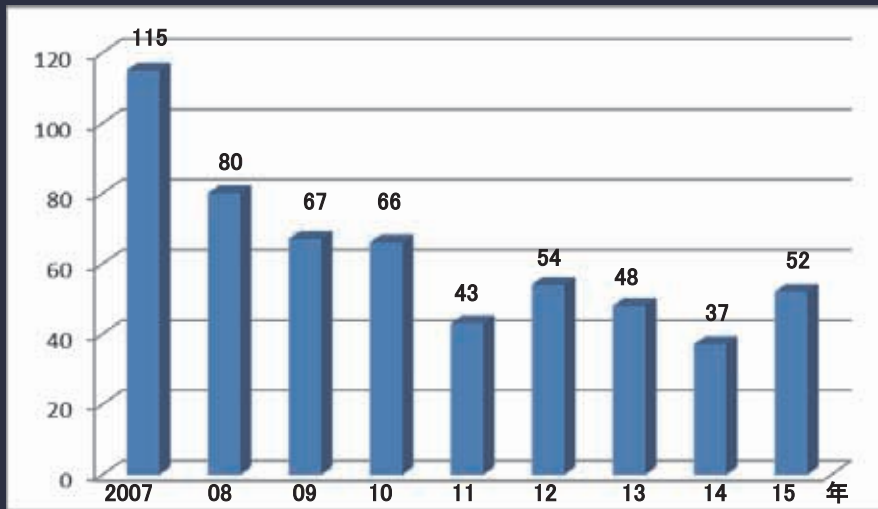


世帯人代表  
大阪発達総合療育センター  
副センター長  
船戸 正久 氏

(次回)  
第6回ショートステイ連絡協議会  
(ボランティア)  
2016年10月29日(土)  
ベルデさかい担当  
「ショートステイの質を考える」

第5回 ショートステイ連絡協議会  
【日 時】:平成27年10月31日(土)13時30分~16時45分  
【場 所】:淀川キリスト教病院 4階 礼拝堂(チャーチ)  
【テーマ】:「ショートステイの推進~医療・福祉ネットワークの重要性」  
【基調講演】「医療と福祉の連携におけるショートステイの役割」  
児玉和夫(堺市ベルデさかいセンター長)  
【指定講演】  
1. 医療施設におけるショートステイの現状  
大阪府立住吉市民病院 院長 舟本 仁一  
2. 療育施設におけるショートステイの現状  
大阪発達総合療育センター 医務部長 竹本 潔  
【指定演題】  
1. 利用者が感じる福祉施設と医療施設の違いと選択基準  
大阪府重症心身障害児・者を支える会 事務局長 三田 康平  
2. 病院が行うショートステイ(医療型短期入所)の課題  
愛染橋病院 小児科部長 岡 清彰  
3. 療育施設が行うショートステイの課題  
つくし医療福祉センター 院長 飯塚 忠史  
4. 大阪府知事重点事業 重症心身障がい児者地域ケアシステム整備事業  
~ 医療型短期入所整備促進事業 ~ の現状について  
大阪府福祉部障がい福祉室地域生活支援課  
地域サービス支援グループ 課長補佐 三和利恵子

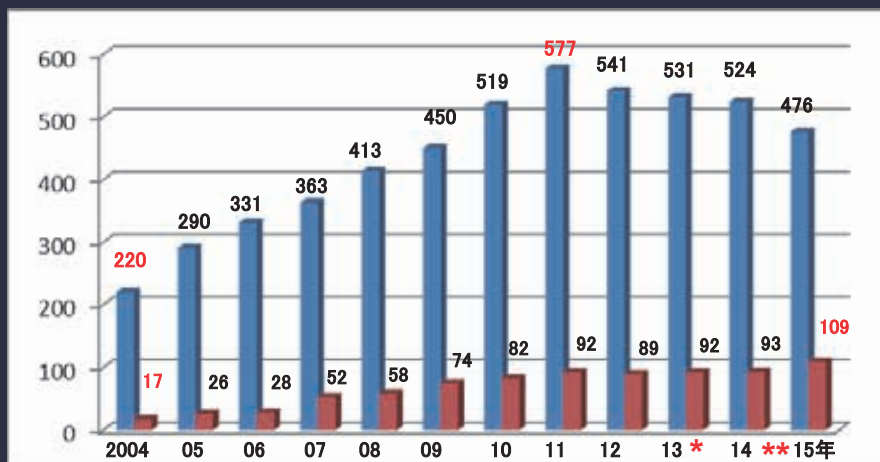
■NICUを有する医療機関における長期入院児数(6か月以上)  
(H28年度大阪府母子保健運営協議会資料、H28.8.4)



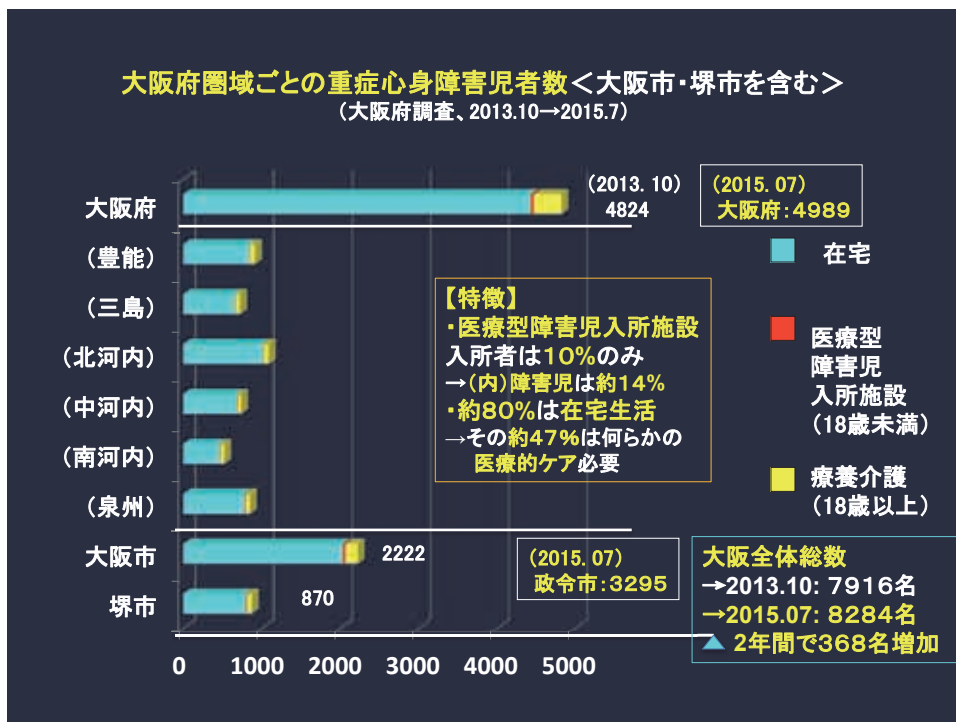
○長期入院児は、約1/2-3に減少している。

大阪府保健所支援在宅高度医療児実数の推移  
(H27年度大阪府母子保健運営協議会資料、H27.7.30)

○2013年度から豊中保健所\*、2014年度から枚方保健所\*\*が中核市に移行



○実人数は約2-3倍、人工呼吸器装着児は約5-6倍になっている。



### ■高度医療児の在宅移行支援のため とくに大切な三本柱(医療・福祉・教育)

#### ■ 医療の三本柱

- 1) 重症児・者に対応可能な訪問看護師・訪問リハスタッフ
- 2) 地域かかりつけ医(訪問診療・往診も含む)
- 3) 緊急時の受入れ体制

#### ■ 福祉の三本柱

- 1) レスパイトを含めたデイケア・ショートステイ事業
- 2) 医療的ケアに対応可能な居宅(訪問)介護事業
- 3) 相談支援事業

#### ■ 教育の三本柱

- 1) 学校における看護配置
- 2) 教員による医療的ケア研修
- 3) 移動中、泊行事中の医療的ケア保障

・小児対応可能な訪問看護ステーションの変遷  
(2012. 9→2015. 9、大阪府調査)

事業所数	2012. 9	2015. 9	1事業所当りの 障がい児者数(人)
(大阪府)			
・豊能	12	16	(8. 3) *
・三島	7	14	(6. 2) *
・北河内	16	23	(6. 0) *
・中河内	7	15	(5. 4)
・南河内	10	16	(3. 4)
・泉州	9	13	(7. 6) *
(政令市)			
・大阪市	36	55	(5. 5)
・堺市	12	23	(4. 0)
全体	119	175	(5. 6)

\* 障がい児者数(2015年調査)に比較して平均より事業所数の少ない地域

・登録喀痰吸引等事業所の変遷  
(2012. 10→2016. 4、大阪府調査)

事業所数	2012. 10	2016. 4	1事業所当りの 障がい児者数(人)
(大阪府)			
・豊能	35	69	(6. 6)
・三島	21	35	(9. 2) *
・北河内	21	40	(12. 5) *
・中河内	16	35	(9. 8) *
・南河内	17	26	(9. 2) *
・泉州	12	27	(14. 2) *
(政令市)			
・大阪市	78	147	(7. 3)
・堺市	16	45	(9. 1) *
全体	216	424	(8. 8)

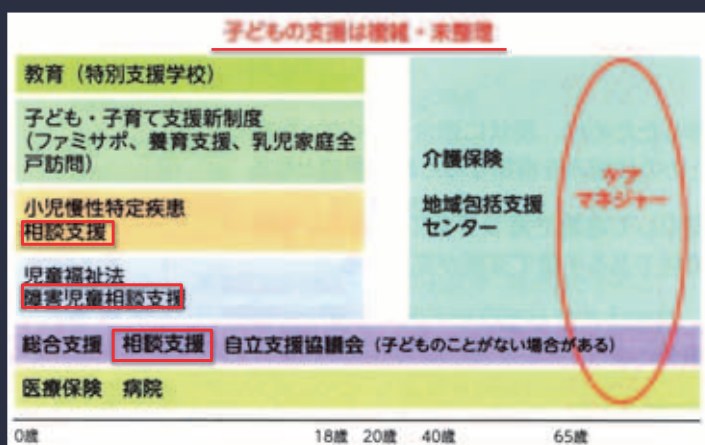
\* 障がい児者数(2015年調査)に比較して平均より事業所数の少ない地域

・相談支援事業所の変遷  
(2012. 10→2016. 4、大阪府調査)

事業所数	2012. 10	2016. 4	1事業所当りの 障がい児者数(人)
<b>(大阪府)</b>			
・豊能	38	122	(3.7)*
・三島	44	67	(4.8)*
・北河内	44	115	(4.3)*
・中河内	50	108	(3.2)*
・南河内	43	83	(2.9)
・泉州	58	204	(1.9)
<b>(政令市)</b>			
・大阪市	158	388	(2.8)
・堺市	81	142	(2.9)
<b>全体</b>	<b>516</b>	<b>1229</b>	<b>(3.0)</b>

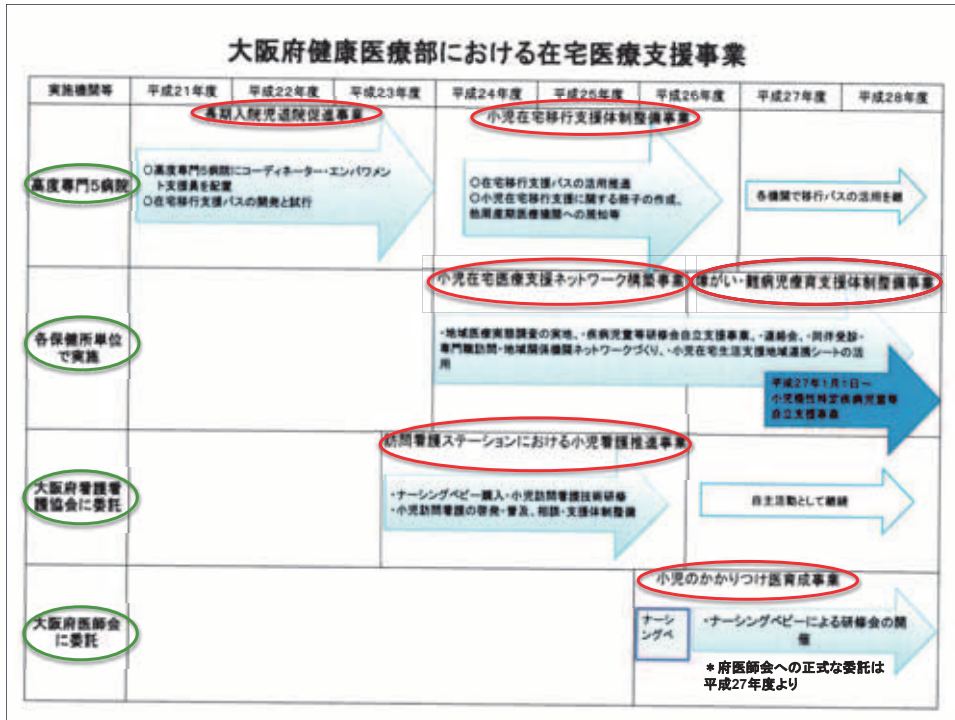
\* 障がい児者数(2015年調査)に比較して平均より事業所数の少ない地域

\*「相談支援専門員に繋がらないと福祉サービスに繋がらない！」



(前田浩利氏のスライドより)

- しかしケアマネジャーのような報酬がつかない！
- ・退院前カンファレンスに出ても無報酬！
  - ・ケアプラン・モニタリングの単価が低価格！
  - ・モニタリングの回数も少ない！



## 情報発信(大阪府HP)

重症心身障がい児者への支援は、医療や保健などの分野との連携することが必要である。各分野の関係者が重症心身障がい児者の現状や必要な支援について理解を深めるために、関係団体が開催する会議等で**大阪府の取組み内容**等について発信を行った。

(開催日)	(主催)	(内容)
・H27.6.28	医療と福祉の連携強化のためのシンポジウム実行委員会	医療と福祉の連携強化のためのシンポジウムステージⅡ
・H27.7.25	一般社団法人 大阪看護協会	小児フィジカルアセスメント研修
・H27.10.31	一般社団法人 訪問看護ステーション協会	訪問看護実務者研修会 ＜初級編＞
・H27.10.31	ショートステイ連絡協議会世話人会 (ボランティア組織)	第5回ショートステイ連絡協議会
・H27.12.5	一般社団法人 大阪府医師会	小児の在宅医療研修会
H28.2.27		
・H28.1.17	大阪小児在宅医療を考える会 世話人会 (ボランティア組織)	第6回大阪小児在宅医療を考える会

## 平成27年度大阪市立大学(文科省事業) 重症児の在宅支援を担う専門職養成のためのインテンシブコース

受講者定員:60名

**重症児の在宅支援を担う専門職養成のためのインテンシブコース 開催のお知らせ**

本コースは、重症心身障がい児者の在宅支援を担う専門職を養成するために、関係団体等と連携して、重症心身障がい児者の現状や必要な支援について理解を深めるために、関係団体が開催する会議等で大阪府の取組み内容等について発信を行った。

**対象** 小児医療に携わった在宅医療に興味がある医療従事者  
(医師、看護師、介護士、福祉士等)

**申込人数** 20名 (定員超過の場合は抽選)

**学費** 無料 (受講料は別途)

**受講期間** 2015年7月27日(月)～8月23日(日)

**受講方法** 大阪市立大学大学院 大学院教育センターにて受講いたします。  
URL: [http://www.osaka-u.ac.jp/doctor\\_education/education\\_courses.html](http://www.osaka-u.ac.jp/doctor_education/education_courses.html)  
Eメール: [education@med.osaka-u.ac.jp](mailto:education@med.osaka-u.ac.jp)

コース概要  
講義 15 単位 実習 2 単位 (合計17単位)

講義	実習
① 重症心身障がい児者の現状と在宅医療の重要性 ② 在宅医療の現状と課題 ③ 在宅医療の推進と関係者の役割 ④ 在宅医療の推進と関係者の役割 ⑤ 在宅医療の推進と関係者の役割 ⑥ 在宅医療の推進と関係者の役割	① 在宅医療の推進と関係者の役割 ② 在宅医療の推進と関係者の役割 ③ 在宅医療の推進と関係者の役割 ④ 在宅医療の推進と関係者の役割 ⑤ 在宅医療の推進と関係者の役割 ⑥ 在宅医療の推進と関係者の役割



教育プログラム・コースの概要  
重症児の在宅支援を担う医師等養成(インテンシブコース)  
鳥取大学大学院・連携大学(大阪市大・山形大学・秋田大学)